

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人すぎのこ会
施設名	あさひ保育園
報告者（役職）	永野 貴美子（園長）
住所・連絡先	福岡県朝倉郡筑前町朝日 1078-1
	 0946-42-8133
	E-mail asahi-hoikuen@gol.com

○タイトル（保育計画）

わくわくキッズひろば ～のびのび遊ぼう！～

○主な助成備品

移動式雲梯、半割りネットトンネル、ミニログ「こ山」

1. 保育計画策定の目的

乳幼児期に必要な「心と体を豊かにし、年齢に沿った運動能力の発達を促す為に効果が期待出来る遊具を」と考え今回の購入を希望しました。また、地域の未就園児との交流（園庭開放）を深め、気軽に遊びに来てもらえる環境を作っていきたいと考えました。

期待される成果・・・

- ① **雲梯**：^{うんてい}3歳児位から遊び始める雲梯は、腕を伸ばしぶら下がることにより自分の体を支え、背骨を真っすぐに伸ばし胸を広げるため、胸郭と肺の成長を促し呼吸機能を高めることが期待される。
手のひらでつかみながら進むことで、手のひらへの感覚の刺激により器用に手が使えるようになったり、次につかむ棒に焦点を合わせることで奥行の認識力と、目と手の協調を高め手先の作業を行うときの集中力も高めるていけるのではないかと期待している。
- ② **半割りネットトンネル**：1歳児から2歳児向けに遊べる運動遊具で、ネットの太鼓橋と木の太鼓橋とトンネルくぐりの3つの遊びが体験できます。
一番上まで行くと体の向きを反転させてお尻から下りるなど基本動作を遊びの中から学ぶことができる。
- ③ **ミニログ「こ山」**：高さが1m50cmほどあるため大きい子は登ったり降りたり全身を使い、また小さい子にも秘密基地やままごと遊びが広がりコミュニケーションを高める効果を期待します。

2. 具体的な実施内容

【3歳未満児】

ネット太鼓橋は色んな活用ができています。

登るときにはユラユラとネットが動くため腕の力を必要としていますが、網をしっかりと握って木の太鼓橋から登っていった方が登りやすいことを覚えたり、体全体を使って楽しむようになりました。

太鼓橋のネットは、ハンモックとしての楽しみもあり寝そべってみたり吊り橋のような感覚を味わいながら登っていく面白さを体験しています。

ミニログこ山は、トンネルくぐりやかくれんぼをしながら「もういいか〜い、まあだだよ〜」の掛け合いを楽しんでいます。中には小さなカウンターがあり「いらっしやいませ」とお店やさんごっこも盛り上がり、大好きな遊具の一つとなっています。

最初は怖くて一人では登れなかったミニログこ山は、何度も挑戦することで恐怖心がなくなりスイスイと登るようになり、1歳児までも挑戦しようとする姿が見られるようになりました。時には砂場セットを抱えたまま登っていく子もいてハラハラさせられることがあります。

太鼓橋にまたがると電車やバスの運転手になりきって遊ぶなどの、ごっこ遊びやなりきり遊びへと遊びが広がっています。



ユラユラして
おもしろい



もういい
か〜い

子ども達の遊びにも変化が・・・



1人で
登れたよ



みんなで
せーの！



【3歳以上児】

太鼓橋は、子どものお腹までの高さしかないため初めは小さい子が遊ぶ遊具だと思っていた子もいましたが、低いことで3歳児も安心して遊ぶことができていたように思います。しかし、大きい子達は低くて簡単に足がつくため安心して太鼓橋の上で飛んでみたり、飛び降りたりする子もいたので、遊び方によっては危険を伴うことがあることも伝えていくことが出来ました。

ネットの部分は裸足で使用するにより、踏ん張る加減を体験したり縄独特の感触を味わう楽しさもあったようです。また、異年齢児でお店屋さんごっこや家族ごっこが盛んになり、『ピンポン、お邪魔します』など、自然と挨拶も遊びの中で学んでいました。

ミニログは中が狭くて入れる人数が限られているため、順番を守って交代をすることも自然と身につけてきたように思います。雲梯は、腕の力がなくぶら下がるだけで精一杯だった3・4歳児も保育士に支えてもらい、片手ずつ移動させていくという要領をつかむと一気にできるようになっていきました。



異年齢で
ままごと遊び

ミニログの中は、子どもだけで遊べる空間としてとても大人気である。



自分で登れる？



どっちがいつば
い下がるか、
競争だね。

子ども達の遊びに変化が・・・



ストレッチ！
あ～気持ちい
い(。)



【年長児】

雲梯は、子ども達が目標を立てて楽しみながらチャレンジ出来るようにと、3色の色分けを試みました。

最初はあまり雲梯には興味を示さなかった年長児は、「難しそう、怖い・・・」。しかし、1人が出来るようになるのと、次から次へと挑戦者が現れ、「今日はピンクまでいけたよ」「次はきいろまで頑張ってみよう」と意欲的に取り組むようになっていきました。



子ども達の遊びに変化が・・・

最後まで出来るようになっていくと、一つ飛ばしや横向きに渡ったりぶら下がって落ちないように競い合うなど次第に遊びは広がっていきました。雲梯が好きな子は毎日何回でも遊んでいて、飽きずにできる集中力の強さを感じました。

また年長児が挑戦している姿を側で見ていた年中・年少児が、雲梯遊びを通じて意欲的に挑戦する姿へと変わっていったり、「やれば出来る！」と色々なことに挑戦し自信へと繋がっていくきっかけ作りとなりました。

後半、年長児が背が伸びたことでぶら下がると足が地面についてしまい、物足りなさを感じている子もいました。



3. その成果と評価

運動場に新しい遊具を購入するにあたり、駐車場として設けていた砂利を撤去し、広々と安心して遊べるように砂の入れ替えを行うなど環境を整えるところから始めました。

平成 29 年 4 月に開園した保育園で遊具も少なかったのですが、今回遊具を増やせたことで異年齢児のかかわりが一段と増え、小さい子は大きい子の真似をしてチャレンジする姿が見えたり、大きい子は「大丈夫かな、1人で登れるかな」と声を掛けたり支えたりと、戸外遊びが広がっていきました。

雲梯は色分けをしたことで子ども達が目標を持って挑戦していく気持ちが強くなっていき、あっという間に上達していきました。一つの色までが出来るようになったことで自信がつき、「もっとやってみたい、次の色までやってみよう」と意欲的な姿へと変わっていききっかけとなったことは、雲梯を取り入れて本当に良かったと思いました。

また、雲梯を取り入れたことで腕の力もしっかりとついてきて、逆上がりがスムーズに出来るようになったり、登り棒を軽々と登れるようになったりと色々な運動機能も発達してきているのかなと感じているところです。

ミニログこ山に繰り返し登って遊ぶことで、後重心から前重心へと体重の掛け方も遊びの中で身につけ、最近では転ばなくなってきた等の報告を受け、購入後の短い期間なのでそれぞれに挙げた効果が表れているかどうかはまだ分かりませんが、何より子ども達が喜んで遊んでいる姿を見て応募して良かったと思っています。

4. 今後の課題と展望

- ①今は自分が好きな遊具でひたすら遊ぶ姿が多いのですが、時には、それぞれの遊具をアスレチックのように組み合わせて並べ、登る・くぐる・渡るなどが次々とチャレンジできるアスレチック体験場を設置できたらいいなと考えています。
- ②期待している効果がいつ頃出てくるのか等、園内研修でも報告し合い展開できたらいいなと思っています。
- ③地域子育て支援活動を年 2 回実施していますが、この他にも園庭開放児や他の保育園児の交流活動にも活用していき、気兼ねなく来ていただけるような環境を保っていかたいなと思っています。

以上